

福島大学

地域実践特修プログラム

ふくしま 未来学

福島だから学べること



福島でしか
学べない
ことがある!

お問い合わせ

福島大学
ふくしま未来学事務局(教務課内)

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
Tel.024-504-2850 FAX.024-548-8224
✉ miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp



ふくしま未来学入門

むらの大学

自主学修プログラム

みらいバス

多様な視点で学ぶ福島の「いま」と「これから」

講義「ふくしま未来学入門」

・「ふくしま未来学入門I・II」のセット受講を強く薦めますが、どちらか一方だけの受講もできます。

・「地域実践特修プログラム」修了には、「ふくしま未来学入門I」「同II」のいずれか、または両方の履修が必要です(p.6参照)。



5学類オムニバス講義で復興の最前線を知る

ふくしま未来学入門I

2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原発事故は、人びとの暮らしに甚大な影響をおよぼし、今なお現在進行形の課題として私たちの前に存在しています。「ふくしま未来学入門I」は、地域とともに歩む総合大学・福島大学の特性を活かした、全5学類の教員によるオムニバス講義。人類が初めて経験する福島の諸課題に、それぞれの学問分野でどのような取り組みがなされ、学問知が実践知としてどのように活用されているのかを学びます。

前期
全15回
2単位

全学類
全学年
対象

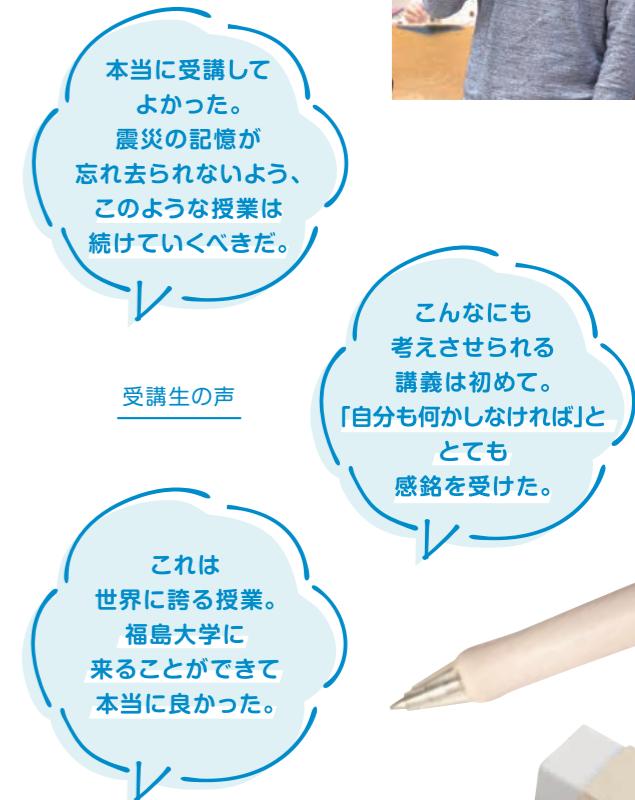
各回の講義例

- 震災・原発事故から今日までの歩み
- 震災後の学校の状況と学生ボランティア
- ふくしまの経験と歴史学
- 観光復興のデザインと福島
- 身近な放射線と福島の現状
- 環境の回復：除染と除染土壌の処理
- 福島の農業の現状と課題 …など



“これは、世界に誇る授業だ”

(学生の感想より)



ゲスト講師の例

- 避難所運営者
- 医師、看護師
- 弁護士
- 社会起業家
- 農業
- シンガーソングライター
- 観光業・インバウンド
- 学校教員
- 自治体職員 …ほか

地域で活躍するゲスト講師陣と考える課題解決

ふくしま未来学入門II

後期
全15回
2単位

全学類
全学年
対象

「ふくしま未来学入門II」では、復興の現場で活躍しておられる多彩なゲスト講師をお招きし、地域で実際に行われている取り組みについて具体的に学びます。震災と原発事故は人類の歴史に残る大きな出来事ですが、福島県内各地で多くの人びとの手によって取り組まれている復興と地域再生の歩みもまた、歴史に刻まれる力強いものです。その一端に触れることで、課題解決型の思考を養うとともに、自らの進路についても考える契機となります。



復興の現場をくりかえし訪れ学ぶフィールドワーク

地域実践学習「むらの大学」

原発事故により避難を余儀なくされ、現在、復興と地域再生に取り組む地域(双葉郡川内村・南相馬市小高区)をくりかえし訪れ、地域住民の方々との交流・調査(フィールドワーク)、そして地域の課題解決に向けた活動(サービス・ラーニング)を行う授業です。5月のガイダンスから1月の現地報告会まで、年間を通して学びを深めます。

- ・「ふくしま未来学入門Ⅰ・Ⅱ」とのセット受講を強く薦めます。
- ・受講希望者は5月に実施する「むらの大学」ガイダンスに必ず出席してください。
- ・フィールドワークの学生負担は食費程度です。

通年
(5月~1月)
2単位

全学類
主に1年生
対象



一年間の流れ

現地でのフィールドワーク(FW)と
学内でのグループ学習をくりかえします。

学内で

1 ガイダンス事前学習

5月

3

夏期FW準備

関心に応じて班別に学習



5

グループ学習

夏期FWの学びをもとに「自分たちに何ができるか」を考える



7

現地報告会準備

1月



現地で

2

1日FW

初めての現地訪問
課題の発見



4

夏期FW

(3泊4日)
班ごとに
インタビュー調査



6

秋期FW

班ごとに追加調査や
現地活動



8

現地報告会

地域住民の方々に1年の学びを発表



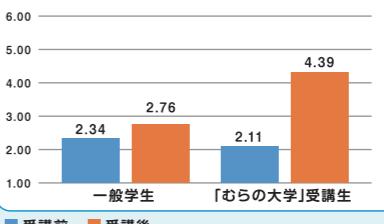
Change

学生の受講後の変化

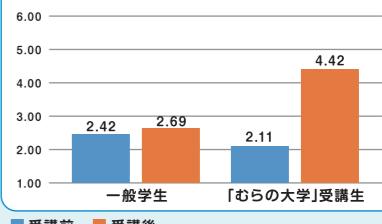
「むらの大学」を履修した学生は、受講前後の自己評価(アンケート)において、「地域実践特修プログラム」で学生が身につける5つの力(p.6参照)全てで大きな成長を実感しています。

また「相手の置かれた状況や立場を理解する力」「多様な価値観を尊重できる力」「課題に対して仲間とともに考える、仲間から学ぶ力」「正解のない問いを粘り強く考え、より良き状態を追求する力」など、共感力・協働力・思考力をはじめとする多くの力での成長が見られます。

地域課題を発見する力



地域を興す力(行動する力)



「むらの大学」で学んだ後は、自分たちで実践! 自主学修プログラム

1年次に「むらの大学」を履修した学生の多くは、2年次に「自主学修プログラム」として地域(川内村・南相馬市小高区)での活動を継続しています。自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。多くの学生たちが、1年次に発見した地域の魅力や課題について「自分たちに何ができるか」を考え、自主的なプロジェクトを継続しています。

学生のプロジェクト例

- 地域の特産品を使った六次化商品の開発
- 菜の花キャンドルの製造とイベントでの活用
- 災害公営住宅への定期的な訪問と交流
- 子どもたちとのふれあいを通じた地域活性化
- 学生が企画・運営する被災地見学(みらいバス) …など



地域を学ぶ、授業外のスタディツアー みらいバス

地域と大学をつなぐ「みらいバス」は、学生・教職員を対象とした日帰り(または1泊2日)のスタディツアー。授業以外で地域を訪問するきっかけをつくるため、年間5回程度実施しています。被災地域の訪問・見学やボランティア活動を通じ、それぞれの地域の現状を学びます。

過去の「みらいバス」

- 川内村「かえるマラソン」ボランティア
- 南相馬市「菜の花迷路」ボランティア
- 双葉町「スポーツフェスティバル」ボランティア
- 浪江町 田植え体験と住民の方との協働ワークショップ
- 福島をいかに海外に伝えるか
- 現状と復興に向けた歩みを知る …など



地域実践特修プログラム ふくしま未来学

福島大学は「地域実践特修プログラム」を通じて、
未来を創造できる人材の育成と、原子力災害からの地域再生をめざします。
文系・理系の全ての学類が一つのキャンパスに集まる福島大学ならではの特修プログラムです。

福島大学の「地域実践特修プログラム」(愛称:ふくしま未来学)とは、地域について実践的な力を養うために設定された科目群のことです。学生は基盤教育科目と学類専門科目とのそれぞれで対象科目を履修し、計30単位を取得することで「地域実践特修プログラム」修了と認定されます。

【地域実践特修プログラム履修基準表】

領域・科目区分	開設科目等	1科目単位数	必修	要認定単位数
基盤教育	学術基礎科目	地域実践特修プログラム科目	各2	16
	問題探究科目	問題探究セミナーI	2 2	
		むらの大学	2	
		ふくしま未来学入門I・II	各2 2	
		その他の問題探究科目	各2	
専門教育		自主学修プログラム	1~	14
	問題探究科目	問題探究セミナーII	2 2	
	学類専門科目	地域実践特修プログラム科目	各2	
「地域実践特修プログラム」修了認定に必要な単位合計				30

・問題探究科目は、全て「地域実践特修プログラム」対象科目となります。

・学術基礎科目・学類専門科目における「地域実践特修プログラム」科目は、シラバスを参照してください。

学生が身につける5つの力

「地域実践特修プログラム」では次の5つの力の養成を目指し、学習効果のデータ収集と、エビデンスに基づいた教育プログラムの改善を行っています。

1. 地域課題を発見する力

地域にあらわれる多様な課題を発見する力

2. 地域を分析する力

科学的にかつ総合的に地域課題を理解する力

3. 地域を興す力

地域課題のミッションを明らかにし、自ら主体的に解決するために行動する力

4. 地域をつなげる力

地域課題を解決するために、多様なセクターと協働する力

5. 地域を伝える力

地域課題の社会的解決に向けて、現状や地域の主体的な取り組みを外部に発信する力

